

## 知覧中央浄化センター植栽管理業務委託 仕様書

### 1. (適用範囲)

本委託については、土木工事共通仕様書及び九州ブロック公共緑化樹木規格基準（案）によるほか本仕様書による。

### 2. (一般事項)

1) この業務は、知覧中央浄化センターの植栽等を年間を通して管理する業務であるが、下水道処理場という特異性のある施設であるため、周辺住民や通行人の感性を考慮し、問題がある場合は、直ちに作業を行い、景観に配慮した施設になるよう努めること。

#### 2) 交通安全管理

請負者は、この委託の施工に当たって、道路通行の人、車等に対する安全管理はもとより、作業従事者の交通安全対策に十分に注意を払うこと。

#### 3) 後片付け

この委託により発生する残材、枯損木、枝葉、雑草、ゴミ等は、通行等の支障とならないよう留意すると共に、作業終了後は速やかに処分する。

### 3. (委託期間)

本業務は、年間管理業務とし、期間は令和8年3月13日までとする。

### 4. (業務委託料の支払)

受託者の請求により上期（9月末）・下期（履行期限）の2回支払（契約金額の1/2）とする。

### 5. (年間管理計画書)

樹種にあった年間管理を実施するために、施工に先立ち樹種毎の年間管理計画書を提出しなければならない。

### 6. (作業月報)

各月毎の月報を（翌月5日までに）提出することとし、当該月の作業内容報告と来月の作業予定を明記するものとする。

### 7. (打合せ書)

樹木等を良好な状態に保つため、請負者は随時見回り点検を行い、樹木の状態を監督職員に報告しなければならない。樹木に異常がない場合は、月報で報告してよいが、異常が発生した場合又は、管理上の良い提案があれば、打合せ書で直ちに報告し協議すること。

### 8. (事前調査)

業務に入る前に、樹種・本数・面積を調査し、設計数量と相違がないか確認し監督職員に報告すること。

9. (作業時期)

他の工区と連絡をとり、同一時期に作業を進めるものとし、業務に関しては、責任を持って年間の管理を行わなければならない。安全協力体制・各種連絡事項は、お互いに協力しなければならない。

10. (現場代理人・主任技術者)

現場代理人・主任技術者は、技術・知識に卓越した者でなければならない。なお、現場代理人・主任技術者は、他工事と兼任できるものとする。

11. (材料承認)

薬剤・肥料等は、材料の承認を得るものとし、カタログ等を使用承認願書で監督職員に提出すること。

12. (下請申請)

下請負人を使用する場合は、下請申請書を監督職員に提出すること。

13. (出来高書類)

請負者は、樹種・本数・面積等を管理し、図面にて提出しなければならない。

工種毎の数量を樹種・寸法・規定等に分別して施工回数・施工時期が確認出来るように作成し提出すること。

(出来高は、全て写真で確認出来るようにする事。確認できない場合は、変更対象とする。)

- ・ 施肥工及び防除工は、数量計算書を添付すること。
- ・ 提出書類は、全てA4サイズとする。

14. (剪定・整枝)

整枝・整姿・刈込みを含み、樹木に適した作業を行うものとする。

<イヌマキ・その他中木・高木>

- 1) 高さの通りを揃える。(盆高)
- 2) 徒長枝・宿草・折損枝の撤去
- 3) 支柱の点検
- 4) 枝作りは、余り薄くせず丸みを持たせ、見栄え良くすること。

<寄植中木・低木>

- ① 剪定時期は、樹種の特性に応じて、花芽分化前に行う。
- ② 樹高等の制限がない限り、特に切詰めは行わず、枝抜きで自然樹形をつくる。
- ③ 円形刈込みは、頂部にふくらみをもたせ、両サイドは枯上りを防止する。
- ④ 角形刈込みは、一度に刈込まず、数度にわけて整形する。
- ⑤ シダレ形刈込みは、切詰めよりも徒長枝の枝抜きを主体に行い、全体をふっくらと仕上げる。
- ⑥ 連続玉物仕立ては、各樹木間の大きさのバランスに留意する。
- ⑦ 刈込みと同時に、くもの巣、落葉、ごみ等を取り払う。罹病枝、害虫は取り除く。

・ヒラドツツジ類

1) 剪定・防除・施肥は、投影面積（敷地・植地）管理  $L \times W$

・カンツバキ類

1) 剪定・防除は、刈込み面積（表面積）管理  $L \times H \times 2 + L \times W + H \times W \times 2$

2) 施肥は、植地面積（敷地）

## 15.（施肥）対象外

・高木施肥（有機土壌改良材＋有機化成肥料）方法

<1本当たり>

・有機化成肥料・・・500g

・有機土壌改良材・・・1kg

\*根鉢上部深さ10cm以上深耕し、土と良く混合すること。

\*深耕出来ない場合は、鉄棒等で深穴し、肥料・改良材混合を投入する目安として1本4箇所以上とする。

但し、2回目施肥の場合は、前回施肥箇所以外とする。

深耕が可能であれば、同じ場所でも良い。

\*施肥適期（1回目）・・・5月下旬～6月上旬

（2回目）・・・10月下旬～11月上旬

・肥料については監督員と協議する。施肥については個々の樹木を見て施肥量を調整すること。

100本当たり	肥料(粒状固形肥料)	100本当たり	肥料(固形肥料)
低木 H=60cm 未満	5kg	高木 C=29cm 未満	30kg
寄植(100㎡当り)	10kg	C=30～59cm 未満	50kg
芝(100㎡当り)	6kg	C=60～89cm 未満	60kg
		C=90～119cm 未満	80kg
		C=120cm 以上	100kg

### 施肥方法

- ・施肥は、肥料の特性に応じて行う。原則として寒肥は、車肥又は壺肥とし、追肥は輪肥又は打込パイル肥等とする。低木の単植及び小規模寄植えはこれに準ずる。ただし、たて穴の深さは20～50cm内外とし、生育状況に応じて深くする。低木の群植又は大規模な寄植えで、車肥、壺肥、輪肥等による施肥が困難な場合は、バラマキ肥により行う。
- ・輪肥の溝の深さは20cm内外とする。
- ・車肥の溝の深さは内側20cm、外側40cm程度とし、長さは枝張りの1/3程度とする。
- ・壺肥の立穴の深さは、40～150cmとする。

- ・ 溝穴を掘る場合は、根を傷めないよう留意し、根鉢内は掘らないこと。

#### 施肥方法概要

- 1) 打状パイル肥：枝張り外周直下に打ち込むものとする。
- 2) 輪肥：枝張り外周線の直下に輪状で深さ **20cm** 程度の溝を掘り、埋め込む。
- 3) 車肥：枝張り外周線に 4 ヶ所程度外側になるにつれて深くなる放射状の穴を掘り埋め込む。
- 4) 壺肥：枝張り外周直下に、6 ヶ所程度穴を掘り埋め込む。
- 5) バラマキ肥：地表面に均等にばらまく。

#### 16. (病・虫害防除)

- ・ 薬剤の使用に際しては、農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）等の農薬関連法規並びにメーカー等で定める使用安全基準及び使用方法を遵守し、事前に周辺住居者等への周知徹底をはかる等人畜への安全に十分留意する。
- ・ 使用日は風が少なく、天候の不順でない日とし、風上から散布する。また、周囲対象物以外のものにかからぬよう注意する。
- ・ 使用時刻は、真夏は日中を避け、なるべく夕方とする。
- ・ 散布は、微噴霧器等を使い、十分圧力をかけ、原則として葉から 30cm～40cm 離して行う。
- ・ 散布量は、所定の濃度に正確に希釈したものを、葉面に細かく水滴がつく程度にし、余分に薬液のついた場合は振り落してやる。
- ・ そしゃく口を持った害虫（葉などを食べる害虫）を対象に行う場合は、当該枝葉部分に十分付着するよう展着剤等を適宜混合して散布する。
- ・ 吸収口を持った害虫（注射針状の口を持っている害虫）を対象とする場合は、害虫に直接散布する。
- ・ 樹高の高い樹木に対して実施する場合等で、これにより難しい場合は、実施方法について、監督職員と十分協議して定める。
- ・ 使用機器及び薬品の保管については、事前、事後を通じ十分に注意し作業終了後は、遺漏なく速やかに片付けること。
- ・ 病・虫害防除を行う際には監督員と協議のうえ、行うこと。

#### 17. (除草)

- ・ 雑草は、一本一本丁寧に、根を残さないように取り除くこと。
- ・ 低木・芝・地被・草花に影響ないように配慮する。
- ・ 特に夏期に行う除草は、表土の剥離による乾燥害に留意する。裸地が生じる場合は、抜取った雑草を利用するとよい。
- ・ 結実する前に、除草することを標準とするが、結実しているものは種子が散乱しないように留意する。
- ・ 除草剤は、芝地、植栽地毎に薬害が生じないものを選択し使用すること。使用上の

留意事項は病虫害防除の薬剤散布の留意点に準ずる。

- ・ 除草（剤含む）を行う際には監督員と協議のうえ、行うこと。

#### 18. (芝刈)

- ・ 芝の種類に合わせた刈高を決めて刈込む。伸びすぎた芝生は一度に短く刈込むのではなくに期間をおいて2～3回に分けて行う。構造物、植栽樹木等、芝の生育範囲以外に伸びた芝は縁取りを行い取り除く。

雨後、朝露の残っている時は避ける。

#### 19. (安全・訓練等の実施)

- ・ 本工事の実施に際し、現場に則した安全訓練とうについて、委託着手後、原則として作業員全員の参加により、月当たり半日以上の時間（月当り2回2時間以上）を割当て下記事項から実施内容を選択し安全訓練等を実施するものとする。

- 1) 安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育
- 2) 本委託内容等の周知徹底
- 3) 本委託安全施工技術指針等の周知徹底
- 4) 土木工事における災害対策訓練
- 5) 本委託現場で予想される事故対策
- 6) その他、安全訓練等として必要な事項

- ・ 安全訓練等の実施状況報告

安全訓練等の実施状況を作業報告（作業月報及び実施状況写真）に記録し報告するものとする。

#### 20. (写真管理)

写真管理は、各工種毎に撮影すること。

- ・ 全て黒板に年から日付を入れること。（令和〇〇年〇〇月〇〇日）
- ・ 剪定工（種別・回数毎）・・・着工前→剪定状況→完成
- ・ 施肥工（種別・回数毎）・・・肥料検収→施肥状況→空袋検収（対象外）
- ・ 除草工（種別・回数毎）・・・着工前→除草状況→完成
- ・ 芝刈工（回数毎）・・・着工前→芝刈状況→完成
- ・ 防除工（種別・回数毎）・・・薬剤検収→散布状況→空瓶袋検収
- ・ 管理工・・・着工前→状況→完成
- ・ 枝、草等処分工・・・清掃状況→積込状況→処分状況（処分場所）

#### 21. (剪定枝等の処分)

- ・ 建設工事の施工により発生する建設廃材（コンクリート塊及びアスファルトコンクリート塊）及び建設発生木材は最寄りの再資源化施設に搬出すること。

なお、建設発生木材については、市町村の焼却施設、民間の焼却施設に搬出することとする。

法面草刈分については対象外とする。

また、搬出後は、マニフェストのコピーを完成書類に含めて提出すること。(対象外)

- ・ 建設工事発注後やむを得ない事情により上記指定により難しい場合は、監督職員と協議の上、その指示によること。